



あんずがスタートして 1 か月が過ぎました。6 月 1 日が、遙か昔のような感覚になるくらい毎日は充実しています。人や場所に“慣れていく”とは分かり合っていくことなんだなと、その日その日を過ごしながら実感しています。生活は人と人とのつながりで成り立っていますからね。

7 月から、児童にも放デイにも新しいお友達が仲間入りします。少しだけ先輩の皆さん、やさしいエスコートをよろしくお願いいたします。

6 月 29 日に開所式を行いました。たくさんの方々にご臨席いただきました。ありがとうございました。あんずが歩き出したことの喜びと責任とともに、なにやら、内側から湧き上がってくる熱いものを、スタッフ一同感じています。

今月のあんずも、楽しく笑顔で、手応えのある時間にしていきましょう。

—7月8月の予定—

7月15日(金) ST(児童)

8月5日(金) ST(児童)

8月11日(木)~21日(日) 夏休み(児童・放デイ共通)

8月22日(月) ST(児童)



＝お知らせ＝

《STについて》(児童のみ)

*7月から児童発達支援でST(言語療法)が始まります。平野千枝先生が行います。子どもの言葉(理解・表現・コミュニケーション)の面からの育ちを継続的に追っていきます。1回45分程度です。一人ひとりの登園日に合わせて順番に入れていきます。よろしくお願いいたします。

《ドクターNの医療相談について》(児童・放デイ共通)

*あんずの囑託医による医療相談を9月から始めます。埼玉医科大学総合医療センター小児科医の奈倉道明先生がいらっしゃいます。発達のこと、身体のこと、薬のこと、診断のこと等に関する相談を一人1回30分枠で行います。事前に希望をとりますので積極的に利用してください。

【日時】 9月29日(木) 11月24日(木) 1月26日(木) 3月23日(木)
いずれも14~16時に4枠(事前予約制)

【場所】 あんず相談室

《地域連携日》

*次の日程で地域連携日を設けます。この日は、幼稚園保育所や学校、他の事業所等への見学や話し合い、研修等を行います。通常の児童発達支援と放課後等デイサービスはお休みになります。

【地域連携日】 9月7日(水) 10月20日(木) 11月18日(金)
1月17日(火) 2月20日(月)

○児童のページ○



バナナクラスの6月あれこれ

バナナクラスがスタートした6月3日（金）からもう一ヶ月になります。一緒に遊んでいく中で、表情もやわらかくなり、笑顔もたくさん見られるようになり、あんずが楽しい場所になってきたのかなと、嬉しく感じています。クラスでやったことを「帰りの車の中で話してました」「歌を口ずさんでいました。」「お家でもやってみました」というお母さん方からの報告もとても嬉しいです。そこで、お母さん方にもっと覚えてもらえるように、手遊びを紹介したいと思います。

アンパンマン

アン アン アン アン アンパンマン
（両手をグーにして上下に交互に振る） （グーの手をほっぺに）
ショク ショク ショク ショク ショクパンマン
（両手をパーにして、頭の横で上下に振る）
テン テン テン テン 天井マン
（両手をパーにして、頭を交互に叩く）
バタ バタ バタ バタ バタコさん
（両手をパーにして、身体の横でバタバタ）
バイ バイ バイ バイ バイキンマン
（両手で一緒に、手を内側からキラキラ）
ア～ン パンチ!!
（両手をグーにして胸の前でグルグル「パンチ」で片手を前へ）

おうちでも
ぜひやって
みてくださいね！



7月から新しいお友達が4人増えます。どんな姿を見せてくれるか楽しみです。



メロンクラスの6月あれこれ

男の子3人の声が響きわたるメロンクラス!!みんな思いをしっかりと伝えてくれた6月でした。「はらぺこあおむし」と「はたらくるま」は定番になりました。知っているもの、好きなものが増え、それが楽しみのひとつになってもらえることがうれしいです。3人がそろそろ月曜日は、お互いが意識しあう姿が見られるようになりました。砂場でギュッと寄り添いながら遊ぶ姿に、職員一同思わず笑みがこぼれます。3人が顔を見合わせ笑いあえる時間をたくさん作っていきたいと思います。

○放デイのページ○

放デイのひと一言

第1弾は、『ラジオ体操』と『リラクゼーション』です。

放デイの活動は、静的なものと動的なものを組み合わせてプログラムを作っています。動的な活動は、存分に身体を動かすことができるよう、広いホールで取り組んでいます。そこでの“始まり”と“終わり”の挨拶とその合図を兼ねて、初めにラジオ体操、終わりにリラクゼーションの時間を取り入れています。ラジオ体操は、“知ってる知ってる!”という表情で、曲が流れる



と自然に身体を動かして…、しっかり準備体操、それが始まりの合図となっています。存分に動いた後は、リラクゼーションタイムです。明かりを消してカーテンを閉めて、室内は暗く、ヒーリングの曲が静かに流れる中で全員が床に寝ころびます。身体のを抜いて横になっているって、じつはとても難しいことなんです。また、生活の中で“力を抜く”という時間はなかなかないことですよね。始めてから1週2週と過ぎる頃より、カーテンを閉めだすと自分から寝転んだり、「寝よう！」という声が聴こえてきたり、流れもわかってきたようです。足をマッサージしたり、トントンと身体に触れることで、安心してその時間を過ごせるお友達もいます。心身ともに落ち着いて、そのまま終わりの挨拶となり、次の活動へと切り替わっていきます。ラジオ体操とリラクゼーションタイムは、熱く静かに継続していきたいと思います。

つながりリレーコラム

第1回目は、生活支援センター日向の野崎陽弘さんです。

“つながり”



“つながり”を感じる時は、どんなときでしょうか。改めて回想してみると「助けてもらったとき」「想いが通じ合ったとき」「同じ目標に向かって一緒に頑張っているとき」などが思い浮かびます。それらに共通していることは、必ず相手がいるということです。あたり前のことかもしれませんが、“つながり”はひとりでは感じられるものではないですね。また、“相手がいる”という状況だけではなく、「自分はひとりじゃないんだ」と思えた、感じられた、という“感情”が伴わなければ、つながりを感じることはできないでしょう。どんなに近くにいても、一緒に物事に取り組んでいても、そこに感情がついてこなければ、つながりを感じることはできないですね。

これは私たち事業所のスタッフとご利用いただく皆さん、または関係機関同士、どちらにも言えることだと思います。少し後者のことについて触れると、私たちが“関係機関とつながる”ということは、“支援のチームをつくる”、に置き換えられます。バレーボールを例にとると、同じ目標に向かって作戦を練り、味方の特徴を知り、阿吽の呼吸でトスを上げ、アタックする。ときには後ろを見ないで絶妙なトスを上げ、それを信じてジャンプしアタックする。ブロックに行く選手とレシーブに備える選手など、お互いを理解し支え合いながらチームとして機能していく。思いっきりブロックに行けるのも、後ろで支えてくれると信じているからですね。同じコート（状況）で試合をし、かつ、お互いを理解し支え合う（感情）、これはまさに、状況だけではなく、感情も伴っている状況です。私たちもそんなチーム（つながり）をつくっていききたいものです。

最後に、少しだけ福祉の専門職としての“つながり”に触れさせてください。私たちは、先ほど述べたように状況と感情を大切にしながら、つながりをつくっていきます。ただ、そのつながりは、「どこまでいくかわからないけど、とにかくロープを伸ばしていく」、というものではなく、ネックレスのように、必ず最初のチェーンと最後のチェーンがつながり、輪にしていくというものです。つまり、つなげたのはいいけど、それがどの方向に、どのくらい伸びていったか皆目見当もつかない、それでは私たちがつくる“つながり”としては十分ではありません。私たちは、「何のために、何を、どのようにしてつなぐのか」を、しっかりと考え、責任を持っていかなければなりません。

そのようなことを大切にしながら、ご利用いただく方々や支援に携わる皆さん、さらには私たち自身も「ひとりじゃないんだ」と感じられるような、あんと日向のつながり、そして地域のつながりを創っていきたいと思っています。